

日 時 令和5年11月22日（水）6校時  
 児 童 6年1名  
 授業者 佐藤 加奈子

- 1 単元名 作品の世界をとらえ、紹介ポスターにまとめよう  
 教材名 「やまなし」 宮沢 賢治 作 （「国語 六 創造」光村図書）

2 単元について

- ・本単元では、宮沢賢治独特の描写を味わうとともに、その生き方に触れることを通して作品の世界を捉える。
- ・これまでに5年生「たずねびと」の学習において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、「大造じいさんとガン」の学習において、情景を描いた表現を見つけ、その心情について考え、物語の魅力をまとめたりする学習をしてきた。また、6年生「帰りの道」の学習においては、視点の違いに着目して読む学習を行い、登場人物の心情や変化、人物像を捉える学習をしている。児童は、対人関係の構築に困難さがあり、日常生活における友達との対話を苦手としている。また、生活経験や語彙の不足により、内容を理解することが難しい面があるため、国語の時間は丁寧な読み取りをしながら力をつけてきた。登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えることは大体できるが、情景から登場人物の心情を具体的に想像したり、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめたりすることが苦手である。
- ・授業者は、情景を具体的に想像できるように、具体物を準備するなど視覚的支援を行いながら学習を進め、作品との対話や教師との対話を通して、物語を丁寧に読み取らせる授業づくりをする必要がある。また、これまでの学習を振り返りながら自分の考えを整理することができるように、文型を示し自分の考えをまとめられるようにしていきたい。

3 単元の目標

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	〔学びに向かう力, 人間性等〕
①比喩などの表現の工夫に気付くことができる。  (1) ク	①人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。  C (1) エ  ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。  C (1) オ	①言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

4 単元の「課題解決的な言語活動」

作品の世界を捉えて読み、本の紹介ポスターにまとめる活動（関連：言語活動例イ）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩などの表現の工夫に気付いている。  (1) ク	①「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。  C (1) エ  ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。  C (1) オ	①進んで、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりし、見通しをもって、ポスターにまとめようとしている。

6 指導と評価の計画（全10時間）

	主な学習活動	指導上の留意点（※支援）	評価
1 ・ 2 ・ 3	<p>○「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を捉える。</p> <p>○「やまなし」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>○本の紹介ポスターにまとめるという、単元のゴールを伝える。</p> <p>○単元課題を確認し、学習計画を立てる。</p> <p>○言葉の意味を確認する。</p>	<p>・宮沢賢治についての出来事や話したこと、行動したことなどを表にまとめることで、宮沢賢治の生き方や考え方に触れる。</p> <p>※<b>児童は宮沢賢治の伝記が好きで、宮沢賢治の生き方に興味や関心が高い</b>ため、導入で取り扱うこととする。</p> <p>・「やまなし」に宮沢賢治が込めた思いについて初発の感想に書くようにする。</p> <p>・「帰り道」の学習を想起し、ポスターにまとめることを伝える。</p> <p>・物語の魅力をポスターにまとめるために、「あらすじ」「表現」「宮沢賢治がやまなしに込めた思い」を読み取っていき自分の考えを深めていくことを確認する。</p> <p>※<b>語彙や生活経験が少ない</b>ので、言葉の意味調べだけでなく、<b>実物や写真などで確認して理解を深める。</b></p>	
4	<p>○「やまなし」を読み、おおまかな内容や構成を捉える。</p>	<p>・登場人物や時間、場所、出来事、視点など物語の設定を確認する。</p> <p>・全体の構成が額縁構造になっていることを確認する。</p>	
5 ・ 6 ・ 7 (本時) ・ 8	<p>○擬音語・色彩語・比喩などの表現に着目して読み、その効果を考える。</p> <p>○表現の工夫に着目して、「五月」「十二月」は、かこの兄弟にとってどんな世界なのかを読む。</p> <p>○「五月」「十二月」を比べて読み、宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いについて考える。</p>	<p>・教科書に印を付けながら表現の工夫を見つけ、作品の世界観を想像させる。</p> <p>・それぞれの風景を絵に表すことで、場面の様子を具体的に想像させる。</p> <p>※<b>絵に表すことで視覚的に捉えさせ、場面を想像しやすくする。</b></p> <p>※<b>絵を描くことに苦手意識があるので、イラストを用意し、自分で選んでワークシートに貼るようにする。</b></p> <p>・「五月」は、かこの兄弟にとって、怖い世界であること、「十二月」は、かこたちにとって楽しい世界であることを会話や表現の工夫から読み取らせる。</p> <p>・表にまとめて対比して読むことで、宮沢賢治が伝えたかった思いに迫る。</p> <p>・「五月」は自然界の厳しさ、奪われる命、「十二月」は自然の恵みとしてのやまなし、全うした命について捉えさせる。</p> <p>※<b>キーワードを表に並べていくことで対比していることに気付かせる。</b></p>	<p>【知・技①】 比喩などの表現の工夫に気付いているかの確認。 〔記述・発言〕</p> <p>【思・判・表①】 かこの親子の様子や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているかの確認。 〔記述・発言〕</p>
9 ・ 10	<p>○宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いについて自分の考えをまとめる。</p> <p>○これまで学習してきたことを基に物語の紹介ポスターを完成させる。</p>	<p>・これまでの学習を結び付けながら自分の考えをまとめられるようにする。</p> <p>・ロイロノートを使いポスターにまとめていく。</p> <p>※<b>進んで学習に取り組めるようにするため、児童が得意とするパソコンを使う。</b></p> <p>※<b>大勢の前で発表することに苦手意識があるため、完成したポスターは、ひまわり学級の友達に紹介したり、掲示をすることで交流学級の友達に見てもらったりする。また、交流学級の友達のリーフレットを見ることで自分の考えを少しでも広げられるようにする。</b></p>	<p>【思・判・表②】 文章を読んで理解したことに基づいて、宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いについて、自分の考えをまとめているかの確認。 〔記述・発言〕</p> <p>【学習に取り組む態度①】 進んで、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、見通しをもって、ポスターにまとめようとしているかの確認。 〔記述・発言〕</p>

7 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

「十二月」は、かこの兄弟にとってどんな世界か、情景を具体的に想像しながら読むことができる。

(2) 展開 (45分)

段階	学習活動	・指導上の留意点【視点に関わって】◇評価 ※支援
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「五月」で表した絵と文を提示し、「十二月」でも同じようにまとめていくことを確認する。</li> </ul>
	2 学習課題を把握する。	
	「十二月」は、かこの兄弟にとってどんな世界だろうか。	
	3 課題解決のための見通しをもつ。	<p><b>【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】</b>          『「五月」と「十二月」は同じだろうか。』と問うことで、「十二月」は「五月」とは違うことを確認し、見通しをもたせる。また、「五月」での学習と同じように音読をして情景を絵に表し、根拠を探していけば課題を解決できることを確認する。</p>
展開 32分	4 課題を解決する。 (1) 自力解決 ①選択肢の中から、予想される世界を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽しい、怖い、悲しい、うれしい、不安、安心」の選択肢から自分が思うキーワードを選ばせる。</li> <li>※自分の考えをもつことができるように、選択肢を与える。</li> <li>※プラス・マイナスのイメージを色分けして示す。</li> <li>・どうしてそのキーワードを選んだかの根拠を見つけることを確認する。</li> <li>・十二月の場面を教師と交代読みする。</li> <li>※大勢の人の前だと声が出せないことが考えられるので、その場合は小さい声でもよいこととする。どうしても読めないときは、教師が読み、場面の様子を考えながら聞くよう指示する。</li> </ul>
	②音読をする。	
	③谷底の様子を絵に表し、場面の様子を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書き込んでいく。</li> <li>※場面を想像しやすくするために絵に表す活動を取り入れる。</li> <li>※困っているときには、前時のワークシートを確認するように伝え、同じでいいか考えさせる。</li> <li><b>【視点2：考えを積み上げる対話】</b>            情景を絵に表したり、根拠を見つけたりすることで作品との対話をして想像を膨らませる。その後、教師と対話することで考えを深めていく。</li> <li>※大勢の人の前で自分の考えを伝えることが苦手なため、うなずきや指差しなどでの表現でもよいこととする。</li> </ul>
	④どんな世界か、その根拠を文章から見つける。	
	(2) 全体学習 ①絵から、場面の様子を確認する。	<p><b>【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】</b>          「上からくるものは、かこたちにとって怖いものではなかったのか。」と問うことで、やまなしは、かこたちにとって楽しみなものであり命の恵みとなっていることから、十二月はかこたちにとって楽しい世界だと確認する。</p>
	②見つけた根拠について考えを発表する。	
	③「十二月」はどんな世界と言えるかをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『「十二月」は、かこの兄弟にとって、〇〇な世界だと思います。どうしてかという』という文型を示して自分でまとめる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「十二月」は、かこの兄弟にとって、楽しい世界だと思います。どうしてかという、かこたちが、おどるようにしてやまなしの円いかげを追いましたと書いてあって楽しい様子が伝わってくるからです。</li> </ul>	
	④教師と確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを深めるために教師の考えも伝える。</li> </ul>

		◇「十二月」は、かこの兄弟にとってどんな世界かを具体的に想像するために、 <u>絵に表したり根拠を見つけてまとめた</u> りしているかの確認。 [発言・ワークシートの記述]
終末 8分	5 学習をまとめる。	
	「十二月」は、かこの兄弟にとって、楽しい世界。「おどるように」や「おいしいお酒ができる」「金剛石の粉をはいているよう」という表現から考えられる。	
	6 振り返りをする。 7 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の言葉をまとめて板書していく。</li> <li>・ワークシートに振り返りを書く。</li> <li>・次時は、「五月」と「十二月」の世界を比べて、宮沢賢治がやまなしに込めた思いを考えていくことを確認する。</li> </ul>

## 8 板書計画

① ふ 「十二月」は、かこの兄弟にとって楽しい世界。「おどるように」や「おいしいお酒ができる」「金剛石の粉をはいているよう」という表現から考えられる。

② ま 「十二月」は、かこの兄弟にとって、○○な世界だと思います。どうしてかというところ、

十二月の絵

「おいしそうだね、お父さん。」  
「おどるようにして」「金剛石の粉をはいているよう」  
「あたりはしんとして」「月が明るく水がきれい」

③ 見 ①絵に表す ②根拠を見つける。  
・楽しい ・怖い ・悲しい ・うれしい ・不安  
・安心

④ 課 「十二月」は、かこの兄弟にとってどんな世界だろうか。  
やまなし  
宮沢賢治 作

## 9 本時の授業改善の視点

### 【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】

『「五月」と「十二月」は同じだろうか。』と問う。「十二月」は「五月」とは違うことを確認することで見通しをもたせる。また、「五月」での学習と同じように音読をして情景を絵に表し、根拠を探していけば課題を解決できることを確認する。

### 【視点2：考えを積み上げる対話】

情景を絵に表したり、根拠を見つけたりすることで、作品と対話をして想像を膨らませる。その後、教師と対話することで考えを深めていく。自分の考えを発表するときには、大勢の人の前で声が出せなくなることがあるので、指差しやうなずきでの表現でもよいこととする。

### 【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】

児童は、十二月は、かこたちの様子から楽しい世界だと考えると思われる。そこで、「上からくるものは、かこたちにとって怖いものではなかったのか。」と問うことで、やまなしは、かこたちにとって楽しみなものであり命の恵みとなっていることから、十二月はかこたちにとって楽しい世界だと再確認する。